

石井町政、始動。

若さと行動力で町政を推進



多良木町長

石井 淳一

略歴

昭和50年8月27日生まれ。
久留米大学法学部を卒業
後、多良木町役場に嘱託職
員として勤務する。平成12
年に株式会社吉新聞社へ入社。
令和6年8月、同社を退社。

任期満了に伴う町長選挙におきまして町民の皆さまの負託を受け、2月19日に第10代多良木町長として就任し、町政の舵取りを担わせていただくことになりました。その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

多良木町は、町村制施行に伴い明治22年、初代淵田勇蔵多良木村長の「多良木を上球磨の中心都市にする」との計画を基に町づくりが進められ、その意志は130年を超えて引き継がれ、球磨人吉で確固たる地位を築き、発展してまいりました。しかし、近年、人口減少と少子高齢化が今後の未来に大きな不安感を与えています。

最高で2万人を超えた人口もすでに1万人を割り込み、2050年には4000人台になるとの推計が出ています。現在の出生数は約30人、それに対して毎年約180人が亡くなるれています。15歳から64歳の社会の中核を担う生産年齢人口は減り続けており、人口ピラミッドは土台のないワイングラスのような形になると考えます。労働力不足や地域経済の縮小、行政力の低下、買い物や交通の困難者など多方面に影響が出てきます。

農林業が基幹産業です。幸いにして安心安全の象徴である多良木警察署、上球磨消防組合、公立多良木病院があります。さらに、医療、介護、

建設、製造、スーパー、飲食店、コンビニなどの各種業態が多いのも特徴で、働く場所の選択肢も数多くあります。歴史的魅力もあり、教育環境も子育て支援策も整備され、不便さは少なく暮らしやすい町と考えています。

また、公立多良木病院で働く人は1日約420人、外来は1日約380人が行き来して、その数は年間で約29万人になります。新型コロナウイルスで減少（令和2年度約22万人）しましたが、令和元年度の観光客数は約33万人。企業や事業所、学校も多く、その数はさらに大きく膨らみ、これは他地域にはない大きなポテンシャルです。

未来は今にある。人口減少や少子高齢化が地域にもたらす危機と町の持つポテンシャルを共有し、町民と議会、町職員の皆さまの理解と協力を得ながら、住み慣れた地域での今の暮らしを守り、上球磨の中心と意志を受け継ぎ、未来を見据えてコンパクトで防災力の高い、安心安全で夢と希望のもてる町にしていくなことが必要だと考えています。

町民の皆さまのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

決意と思いの一端を申し上げます、就任のご挨拶といたします。

令和7年2月吉日

石井 淳一